

機関番号：21402

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20720226

研究課題名（和文） アムステルダムにおけるムスリム系エスニック集住地区の変容

研究課題名（英文） Changes of Muslim Ethnic Enclaves in Amsterdam

研究代表者 大島 規江 (OSHIMA NORIE)

国際教養大学・国際教養学部・助教

研究者番号：90420661

## 研究成果の概要（和文）：

本研究はオランダのアムステルダムを事例にエスニック・エンクレイブの変容を①人口的側面、②空間的側面、③社会・経済的側面、そして④文化的側面から包括的に分析・実証したものである。1990年代からのエスニック・エンクレイブの郊外への拡大には、福祉国家オランダの住宅供給システムのみならず、エスニック事業所やエスニック・コミュニティの存在が大きな要因となっていることが実証された。

## 研究成果の概要（英文）：

This research comprehensively examines changes of Muslim ethnic enclaves in Amsterdam, the Netherlands from aspects of 1) population, 2) spacial, 3) socio-economic, and 4) cultural dimensions. As a result, ethnic enterprises and ethnic community contribute to forming/maintaining of ethnic enclaves as well as the housing supply system in, welfare state, the Netherlands.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学

キーワード：都市地理学

## 1. 研究開始当初の背景

グローバル化の進展とともに、母国を離れて生活する人々は増加の一途をたどっている。申請者は、オランダ・アムステルダムに定住するムスリム系住民の集住地区拡大要因として、①人口構成の変容と②住宅供給システムの2つを指摘した。1990年代におけるムスリム系住民の中心市街地周辺のインナーシティから郊外への居住地の

外方移動が、アムステルダムの居住地構造にダイナミックな変容をもたらしていることも明らかにした。

上記の過程で、集住地区に集積するエスニック事業所のマイノリティ・コミュニティに果たす役割に気づき、集住地区の総合的な研究、つまり、人口的側面、空間的側面、社会・経済的側面、そして文化的側面から集住地区を考察する必要性を認識するに至った。

## 2. 研究の目的

エスニック・マイノリティの集住地区に関する研究は1980年代後半から徐々に蓄積されてきた。しかしながら、研究者によってそのアプローチは様々であり、1地域の集住地区の在り様を総合的に捉える試みは少ない。本研究は、エスニック集住地区の変容メカニズムを、①都市内居住地移動という人口学的側面から、②エスニック事業所の立地展開という社会・経済的側面から、③エスニック・コミュニティにおける文化の継承という文化的側面から総合的に検証しようとするものである。

## 3. 研究の方法

従来、都市内居住地移動は都市地理学、エスニック・ビジネスは商業地理学、文化・アイデンティティの継承は文化地理学において論じられてきた。本研究は、「エスニシティ/マイノリティ」を切り口として、この3つの下位分野を横断的に取り扱い、分析する。本研究は下位分野において個別に扱われてきたテーマを総合的に検証することで、既存の研究の不足点を補う。具体的には、1年目は人口学的側面、2年目は社会・経済的側面、3年目は文化的側面に関する調査を実施した。

## 4. 研究成果

本研究はエスニック・エンクレーブを①人口的側面、②空間的側面、③社会・経済的側面、そして④文化的側面から包括的に分析・実証したものである。

ムスリム系住民に限らず、アムステルダムのエスニック・マイノリティの居住地移動にはオランダの住宅供給システムが大きく関わっている。1990年代からのエスニック・エンクレーブの郊外への拡大には、住宅供給システムのみならず、エスニック事業所やエスニック・コミュニティの存在が大きな要因となっていると予見されたが、本研究はそれを実証する形となった。

エスニック事業所の立地展開と都市内居住地移動には相関関係があり、マイノリティが事業所の設立・開業にマイノリティ人口の規模およびエスニック・コミュニティの存在が大いに考慮されていることが明らかとなった。

エスニック・コミュニティに関する調査からは、ホスト社会の保守化以前からエスニック・コミュニティによる相互扶助が積極的に行われ、出自の文化とアイデンティティの維持・強化に大きく貢献する形となっていることが検証された。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文] (計1件)

1. 大島規江 (2009) : オランダの国土政策と都市 単著, 雑誌地理 645, pp. 28-35. (査読無)

[学会発表] (計1件)

1. 大島規江 (2009) : EU統合による地理教育の変容—オランダの中等教育を事例に— 単独, 2009年度秋田地理学会, 2009年9月26日, 於秋田大学.

[図書] (計5件)

1. 大島規江 (2011) : 「EU市民の暮らし」加賀美雅弘編 『EU地誌』, 朝倉書店, pp.107-118.
2. 大島規江 (2011) : 「エスニック・エンクレーブの形成・拡大の分析視角」山下清海編 『現代のエスニック社会』, 学文社, pp.48-57.
3. 大島規江 (2011) : 「アムステルダムにおける都市内居住地移動」山下清海編 『現代のエスニック社会』, 学文社, pp.126-145.
4. 大島規江 (2009) : 「アムステルダムの景観を歩く—都市発展と移民から読み解く景観」阿部和俊編 『都市の景観地理』, 古今書院, pp.34-46.
5. 大島規江 (2008) : 「オランダのエスニック社会」山下清海編 『世界と日本のエスニック社会』, 明石書店, pp.149-157.

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :  
番号 :  
出願年月日 :  
国内外の別 :

○取得状況 (計0件)

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :

番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者 大島規江 (OSHIMA NORIE)  
研究者番号：90420661

(2) 研究分担者 なし ( )  
研究者番号：

(3) 連携研究者 なし ( )  
研究者番号：